

# 留学報告書 II (2022 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾高等学校 2 年
留学先校名	Winchester College
留学期間	2022 年 9 月から 2023 年 7 月まで

## 留学を振り返って

### クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

Winchester は学業以外の授業の事を Ekker (Extra Curriculum の略) と呼びます。Ekker として主にスポーツ、音楽、Community Service の 3 つを軸に行っていました。

#### ○スポーツ

Winchester ではメジャースポーツが学期ごとにより変わり、生徒たちはそれぞれ違うスポーツに参加するのが一般的です。僕が主に参加したのは以下の通りです。

1 学期 : サッカー (週 3)、バスケットボール (週 1~2)

サッカーは Winchester で最も人気なスポーツで、7 つほどチームがあったと記憶しています。バスケットボールにはサッカーが雨天中止になった時に参加していました。先生たちもかなり柔軟に対応してくれました。

2 学期 : Winchester Football (週 2)、サッカー (週 1~2)

2 学期には世界で Winchester のみに存在する独自の Winchester Football という競技があります。ルールが複雑であり、すべてを把握している生徒はほとんどいなかったように思います。イメージとしてはサッカー、テニス、ラグビーを組み合わせたようなスポーツです。初めは戸惑ったものの非常に新鮮でとても楽しかったです。

3 学期 : テニス (週 3)

サマータムとなる 3 学期は、大きなテストがあるためかスポーツの選択肢が少なくなっていたように感じます。その中でもテニスは人気なスポーツであり友人達とともに楽しむことができました。

上記のスポーツに加えて、スカッシュ、ラケット (スカッシュに似た競技)、Fives などイギリスで人気なスポーツもいくつか試みました。

#### ○音楽

週に一度ギターのレッスンを受けていました。ほとんど初心者状態から始めましたが、先生と気があったこともあり一週間の中の楽しみの一つでした。

#### ○Community Service

Year 12 (僕が参加した学年) の生徒は Community Service (ボランティア活動) または CCF (軍の訓練) に参加しなければなりません。僕は Alsama Project という Community Service に週に一度参加していました。このプロジェクトではアラブ諸国をはじめとした国々で十分な教育を受けられない子供たちのためにオンラインで英語のレッスンを提供するというボランティア活動でした。初めは英語で英語を教えるというのは非帰国子女の僕にとってとてもハードルの高いものでした。しかしながら、毎週レッスンを重ねるごとに生徒たちが学びたいことを汲み取ることができるようになったと共に、自分自身の教えるスキルも上達していきました。さらにはレッスンごとに生徒たちとの友情が芽生え、最終日に別れが惜しいほどに

なりました。初めは不安だらけなボランティア活動でしたが、振り返ると最も有意義な経験の一つとなりました。

## 学業について

**各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。**

Winchester では A-level という Cambridge International が提供する高校卒業資格を目標にシラバスが組み立てられ、授業が進められていきます。僕は Maths (イギリス英語では s がつきます), Further Maths, Physics, Economics, Div の 5 科目を履修しました。

○それぞれの教科について

・ Maths, Further Maths

数学は得意な教科だったこともあり、一年を通してとても楽しんだ教科の 1 つでした。幸運なことに僕は Top set すなわち最上位のクラスに在籍することができたため、授業のレベルのみならず生徒たちのレベルも学校随一でした。

宿題は週に一度課され、短いときは 2 時間、長いときは 5 時間程度を要しました。わからないところがあるときは友人、先生にチャットで質問でき、勉強しやすい環境が整っていたと思います。

数学が得意の生徒が多かったため、三学期の終わりに integration Bee! という積分の大会を生徒主催でクラス内で行いました。今までとは違う形の楽しさで数学を学ぶことができ、非常に印象に残っています。

・ Physics

物理では 2 人の先生が週に 4 コマずつ別のトピックを担当してくれました。とてもユーモアのある先生たちで授業がとても楽しかったのが印象に残っています。実験がかなり頻繁に行われ、指示に従うだけでなく、自分たちの考える力も必要とされます。また日本と異なる点として、実験のデータを Excel に読み込み、分析までをパソコンで行っていくという点です。日本では何かと紙とペンでグラフを書くことが大半だったと記憶しているのですが、正確なグラフやたくさんのデータを扱うために Excel を扱えるようになるのは不可欠であると感じました。

・ Economics

経済はマクロ経済学とミクロ経済学に分かれており 2 人の先生がそれぞれのトピックを担当していました。一年を通してとても興味深いトピックが多く、特にマクロ経済学はいかにして政府や中央銀行が経済を安定させているのかを理解することができ、現実世界で起こっていることが理解できるようになったのは興味深かったです。

他の教科とは打って変わり、エッセイをベースとしていました。他の教科ではエッセイを書く機会がかなり限られる為、自分の Writing を伸ばすという意味でも選択して良かった科目です。初めの数カ月は自分の拙い英語で必要な分量を書き上げるだけでも骨が折れ、さらには苦勞して書いたからといって必ずしも点数が高いという訳ではなく、聞かれている質問に対する的外れなことを書いてしまうなどたくさんのミスをしてしまいました。しかし、これらの失敗を一年積み重ねたことで、年度末の成績では A\* という最高成績を納めることができました。これは自分の中で一つ大きな成功体験となり自信をつける機会にもなりました。

また、このクラスは授業の中での発言が最も活発であり、初めは周りの生徒たちの質問を受けて挙手するまでのスピードについていけなかったのをよく覚えています。自分の意見を素早くまとめてわかりやすく伝えるという能力は容易に習得できるものではなく、まだ成長の余地があると感じています。

・Div

Div とは A-level の教科ではない Winchester 独自のレッスンです。Div にカリキュラムは存在せず、先生によって教えることが全くもって違います。あるクラスでは詩を作ることがあれば、他のクラスではトルコの歴史を学ぶなんていうこともありました。科目にとらわれず幅広い知識を吸収できるのが Div であり、Winchester に Year 9 からいる生徒は多岐にわたる知識を Div から学んだ生徒が多かったように感じます。そのため Div ではしばしば活発な議論が起こっていたように思います。特に印象的だったのは Genocide (大量虐殺) について扱ったレッスンでの白熱した議論です。生徒の一人に身内に関係者がいたこともあり議論が中断されたこともありました。また、プレゼンテーションが頻繁に行うことが求められ、自分自身もトルコの歴史や浮世絵についてプレゼンを行いました。初めはなかなか発言するのに苦労したレッスンでしたが、今まで受けた授業の中で最も面白いものの一つでした。

日本で期末試験に当たるテストが 11 月と 6 月にありました。(Div はテストがありません)

一般的には、6 月の試験の結果を大学入試に用いるのでより重要です。

○イギリスと日本の教育の違い

イギリスの教育を日本と比較したときに異なることが 3 つあると感じました。

1 つ目は Discussion-based のレッスンであるということです。日本での Lecture-based の一方向の授業に対し、イギリスでは数学のクラスでさえ先生の質問に対し、生徒たちが積極的に手を挙げて答えるだけでなく、その意見にさらに意見をぶつけて学んでいく Discussion のような形で授業が進められていきます。またこの形式を可能にするためか 1 クラスあたり 10 から 15 人で構成されています。35 分という日本より短い授業時間ではありますが発言する機会は多く、短い時間で集中するという印象があります。それぞれのシステムにメリット、デメリットがあると思いますが 1 つ 1 つの授業で自分の中で深くまで落とし込むことができる Discussion-based の授業は日本でも導入してみたいと感じました。

2 つめとしてはテクノロジーの利用が一步進んでいるということです。Winchester では高等学校と同じように Microsoft Teams が使用されています。しかし、Winchester ではこれに加え一人一台デバイス (主に Surface) を持っているため、OneNote を使って授業が円滑に進められていきます。先生も OneNote を使用するため板書がクラウドに記録されていき、ノートをとる時間が無くなり、その代わりに先生の話に集中して聞き込むことができました。また課題の提出等もわかりやすく管理されており漏れがあることがほとんどなかったように感じます。伝統校であっても新しいものに融合していく力がとても強い学校であると感じました。

3 つ目は個性を伸ばす教育であるということです。イギリスでは Y12 (日本では高校 2 年生) に当たる段階で 10 教科ほど選ばなければならなかった GCSE から 3-5 教科のみの A-level へと移っていきます。ここで組み合わせは多種多様で理系の教科のみを選択する生徒もいれば、文理融合してとる生徒、音楽で固める生徒など大学受験を見据えて自分がやりたいことを Y12 の段階から決めることができます。週に 8 コマ自分が決めた科目を深く勉強していくことができるのがイギリス教育の良い点です。一方でやりたいことが定まっていないと選択肢が狭まってしまい手遅れになってしまう可能性が高いのがデメリットとしてあげられると感じました。

## 今後の派遣留学生へのアドバイス

留学前は自分が選択した科目の予習をしておくことをおすすめします。前提として他の生徒達は GCSE で浅くではありますがトピックをすでに学習しているケースが多々あります。(特に数学、物理、科学) そのため言語の壁にさらに知識の壁があると授業について行くのに一歩出遅れてしまいます。さらに、初めの1ヶ月は学校生活に慣れるので一苦労です。慣れない環境で新しいことが立て続けに起こり、肉体的にも精神的にもとても大変です。そのため夏休みの時間のあるうちに選択した教科の教科書を大まかにでも勉強しておくことは後の自分をとても助けます。可能ならば、日本の歴史や文化について理解を深めておくこと役立つことがあると思います。Winchester の中で数少ない日本人であるため、歴史・文化について聞かれることは間違いなくあるでしょう。

留学中で僕が思う最も大切なことは情報をしっかりとキャッチすることです。初めは言語の壁があることに加え皆が当たり前知っていることを知りません。一例を挙げると、日曜日にあるチャペルの時間が週によって異なります。しかし、何年も暮らしている生徒達なら当然知っていることなので先生は説明しないことがあります。気づけないことがないように自分から先生、友人に確認することがとても大切です。そうでないと大事なイベント等を逃してしまうかもしれません。

ここまでやや厳しいことを書きましたが、普段の Winchester での生活はとても楽しいです。留学ならではの寮生活は良い経験になることは間違いありません。初めはすべてが不安だと思いますが、僕自身もそうでした。しかし、最後には間違いなくたくさんの友人達との別れが惜しなるほど居心地の良い場所になるでしょう。自分なりにもがき苦しみ、精一杯頑張ることで自分だけのストーリーを描くことができます。初めは長く感じるであろう留学生活もあっという間に終わってしまいます。時間が許す限り精一杯、芯を持って頑張って下さい！

以上

